



沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

- | | | | |
|--|-----|--|-------|
| 1. 校長より | 2 | 12. グローバル交流推進センターの活動紹介 | 12~13 |
| 2. 総務主事・教務主事あいさつ | 3 | 13. 地域の文化の最前線を学ぶ | 13 |
| 3. 学生主事・寮務主事あいさつ | 4 | 14. 学生会より | 14 |
| 4. 後援会長・学生課長あいさつ | 5 | 15. 寮生会より | 16 |
| 5. 第1学年学級担任・第2学年主任より | 6 | 16. オープンキャンパス・サマースクール開催について | 17 |
| 6. 学科長より | 7~9 | 17. 平成29年度 九州沖縄地区高等専門学校
体育大会の結果について | 18 |
| 機械システム工学科・情報通信システム工学科
メディア情報工学科・生物資源工学科・総合科学科 | | 18. 平成29年度 九州沖縄地区高等専門学校
体育大会結果一覧 | 18 |
| 7. 専攻科長あいさつ | 9 | 19. 図書館より | 19 |
| 8. 教育福祉推進室より | 10 | 20. 平成29年度 人事異動について | 19 |
| 9. 保健室より | 10 | 21. 平成29年度(後期)行事予定表 | 20 |
| 10. 地域連携推進センター活動紹介 | 11 | | |
| 11. キャリア教育センター活動紹介 | 11 | | |

沖縄工業高等専門学校
校長 安藤 安則



2017年6月末から7月初旬にかけて、山陰地域や九州北部地域に線状降水帯という昔には聞か
なかった集中豪雨が襲来し多大な被害をもたらしておりますが、これから台風シーズンになります
ので沖縄高専は関係者と協力して台風襲来への準備を行い、出来るだけ被害が少なくなるように努
力して行きたいと思っております。

さて、平成28年度の就職・進学状況を振り返りますと、本科卒業生149名の内、56%が就職を、
44%が専攻科や大学への進学を希望し、就職希望者は95%がそれぞれ希望通りに進み、残りは就職
活動が続け、自営業や就職浪人をする事になり、進学希望者は100%望みを果たしました。また、
専攻科修了生15名の内、33%が進学を、67%が就職を希望し、全員望みを実現できました。

次に平成28年度における沖縄高専の学生諸君の活躍を紹介しますと、日刊工業新聞主催第17回
「理工系学生科学技術論文コンクール」で最優秀賞（文部科学大臣賞）と入賞、マレーシア・ペトロ
ナス工科大学で開催された「UTP-KOSEN シンポジウム」で本校学生が Best Presentation 賞を受賞、
第38回全国高専通信弓道大会で女子団体・個人で本校女子弓道部が優勝等、数々の輝かしい成果を
上げました。

また平成28度の沖縄高専の外部ファンド獲得額は全国51国立高専の中で昨年度に引き続き、
3年連続で全国一を維持しましたことは、偏に沖縄高専を応援して頂いている皆様のおかげと考え
ております。

昨年度もお知らせしましたように、沖縄の21世紀ビジョンに基づく沖縄の発展計画に対応し、
平成27年度より日本の航空会社（ANAやJTA）や重工業メーカー（MHI、IHI）等のご協力を頂き、
更に九州大学工学部航空宇宙専攻部門のご協力も得て、国立高専として初となる「航空技術者プログ
ラム」を開設し、平成28年度には最初のプログラム修了生を送り出しました。また、昨今、社会的
に重要視されている情報セキュリティ人材や医工連携人材育成等のプロジェクトにも国、県、企業
や他の高等教育機関等と協力して積極的に取り組んでおります。

本校は、前述の教育研究活動を推進するに当たり、機械システム工学科、情報通信システム工学科、
メディア情報工学科、生物資源工学科の本科4学科と各学科共通の教養科目を担当する総合科学科、
本科卒業等の後に更に高度な専門教育を行う2年制の専
攻科を置いて、其々の専門性に優れ、コミュニケーション能力を持ち、地域貢献に意欲的な人材を輩出してきて
おります。

我々教職員は沖縄高専の関係者と一体となって、より
良い教育環境の実現に向けて精進してまいりますので、
今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。





総務主事あいさつ

総務主事 田中 博

平成 29 年 4 月より総務主事を拝命しております生物資源工学科の田中博です。今春には 149 名の本科卒業生（海外留学生 2 名）、15 名の専攻科修了生が飛び立ち、また第 14 期生として 172 名の本科新入学生、3 名の新入海外留学生、29 名の専攻科新入学生を迎えることができました。本校の教育研究活動をご自身の関心事として捉えいただき、平素より本校の活動にご理解、ご協力いただいた皆様とともに達成できた成果だと認識しています。お一人おひとりのご支援に、心より感謝いたします。

総務主事は校長を補佐し、教務主事、学生主事、寮務主事が所掌するものを除く予算・規則・評価・将来計画などの管理運営を担当します。本校に集う学生と教職員が安心して、伸び伸びと活動できる環境を提供すべく、学生、教職員とともに学内教育環境の整備改善に努めてまいります。特に今年度は、本校としては 2 度目となる高等専門学校機関別認証評価を受審するために、昨年度より「教育組織」、「教育内容及び方法」、「教育の成果」、「学生支援等」、「教育の質の向上および改善のためのシステム」、「管理運営」等の基準ごとに自己評価を実施してきました。本年 10 月には大学改革支援・学位授与機構による訪問調査が予定されていますが、自己評価の中で抽出できた改善が必要な事項につきましては、評価結果を待たず、具体的な改善を進める所存です。

さて、大きな視野のもと、自ら学び、自ら考え、自ら動くことは、本科卒業後、どのような世界に飛び出すにしても、エンジニアの卵として「自立」し、人々に「信頼」され、社会の発展に寄与するための「力」をつけていくために必要な人間基礎力です。未来の社会がどのように変わろうとも、そこで自立し、果敢に挑戦し、次の社会を作っていくための人間基礎力の育成には、本校における教育活動とともに産学連携協力会、後援会、保護者、同窓会の皆様をはじめ地域の皆様との連携・協働による複合的な人材育成が必要です。本年 4～5 月には後援会の各支部総会、5 月 1 日には産学連携協力会総会、また 5 月 27 日には後援会総会において、計 200 名を超える皆様とお会いし、お話しさせていただく中、多くの皆様から「沖縄高専のことをもっと、具体的に知りたい」というご希望をいただきました。ありがとうございます。本校をさらに知っていただくことは、皆様と共に学生を見守り、励まし、自らの学びを支援することに直結します。今年度は皆様と沖縄高専とがさらに交流・連携・協働し、次の世代を担う人材の育成に力を合わせることができる管理運営体制を目指しますので、なお一層のご支援、よろしくお願い申し上げます。



教務主事あいさつ

教務主事 眞喜志 隆

昨年度に引き続き教務主事を拝命いたしております機械システム工学科の眞喜志隆です。今年度もよろしくお願いいたします。ここ数年高専教育は変革期を迎えており、高専全体として、その使命の再定義を行っております。沖縄高専も、設立の趣旨に立ち返り本校の四つの教育目的を達成するために、より具体的な三つの基本方針（三つのポリシー）を以下の様に決めました。

- ①学校全体としてどのような人材を育成するのか育成すべき人材像を設定し、これをディプロマポリシーと呼びます。
- ②ディプロマポリシーを達成するためにどのような教育内容にするのかを明確化し、これをカリキュラムポリシーと呼び、
- ③さらに、入学時にどのような志をもった人材に入学してほしいのかをアドミッションポリシーとして決めました。

紙面の関係上詳しくは述べませんが、沖縄高専のディプロマポリシーは次のようになっています。「(1) 理工系の基礎的な学力をもとに、各専門分野の基礎的な知識と技術及びそれらを応用する実践力を身に付けている。(2) コミュニケーション力を身に付けており、他者と協調して課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。(3) 技術者としての倫理観を持ち、専門知識を社会のために役立てる能力を身に付けている。(4) 継続的に自己研鑽できる能力を身に付けている。」。これらの沖縄高専のポリシーをもとに、さらに四つの専門学科でそれぞれの学科の特性に合わせて、より具体的に定めたポリシーも定めてあります。詳しくは本校ホームページの学校概要から三つの方針をご覧ください。三つのポリシーは沖縄高専の基本方針や各学科の教育方法を大きく変更したものではなく、これまで行ってきた人材育成の目標や教育方法、入試目的をより分かりやすく策定し公表したものです。学生諸君は沖縄高専や各学科の教育目標やポリシーをよく読んで、自ら学んでいく姿勢を忘れずに日々の継続した学習を続け、クラスや学科の仲間とお互いを高め合う関係を作りともに成長し行くことで、目指すべき道を進んで下さい。

高専での学生生活は、普通高校とは大きく違い、専門知識の学習や技術の習得にかなり忙しく、また、進路に悩む時期でもあります。教職員も学生の進路選択を支援することは当然として、保護者の皆様も本人との会話を密にお願いいたします。また、本校教職員との情報の共有を図っていただき学生の健全な成長へのご支援ご協力をお願いいたします。



学生主事あいさつ

学生主事 比嘉 吉一

日頃より本校の学生指導・課外活動へのご理解・ご支援を賜りまして誠に有難うございます。今年度、4月1日付で本校学生主事を拝命しました、機械システム工学科の比嘉吉一（ひがよしかず）と申します。2004年4月の第1期生受入以降、小職が4人目の学生主事であり、諸先輩方の仕事を目の当たりにしてきたものとしては、気おくれをしておりますが、学科・課外活動以外での数多くの学生さんとの関わり合いができることに期待して務めて参りますので、何とぞ宜しくお願い致します。

さて、今年度はサッカー一部の主将を旗手に、5/26の沖縄県高校総体総合開会式への参加を行い、5/27からの高校総合体育大会、6/17には全国高等学校野球選手権沖縄大会開会式と多くの課外活動報告を受けております。その中でも、既に新聞報道等でご存知のこととは思いますが、陸上競技対抗選手権大会の棒高跳で本校陸上同好会の機械システム工学科2年の学生さんが1位に輝き、派遣された南九州地区大会（熊本県）でも自己ベストを更新して4位に入賞し、7/28から山形県天童市で実施されるインターハイ全国大会出場の切符を手に入れました。6/25には硬式野球部の3シーズン振りの公式戦勝利も嬉しいニュースでした。これら課外活動に対しては、派遣費の補助をはじめとした後援会からのご支援、日頃の練習への保護者の方々のご協力や大会会場への引率など大きなサポートに對しまして心より御礼申し上げます。

学生会の活動としましては、4/29の体育祭を成功裏に収めたのち、5月には第1回の学生会議会にて、今年度の年度計画および予算案が承認され、11/4・5に計画されております高専祭に向けて各局にて準備を進めているところです。また、学生会主体の活動としましては、風紀局による朝の挨拶運動、学内大清掃、辺野古区域での清掃活動のほか、新たな取り組みとして、総務局企画による「行列のできる高専相談所」を計3回運営しました。日頃より学科・学年間を超えてのコミュニケーションを通して、ダイバーシティマネジメントの一助となることを期待するところです。これら、学生発の積極的な動きに教員サイドとしては、暴走しないようブレーキをかけることもありますが、学生の勇気挫きにならないよう、支援していきたいと考えておりますので、学生教育の一環として温かい目で見守って頂けますよう宜しくお願い致します。

車輛通学に関しては、4/27に3学年以上の学生に対して交通安全講習会を実施し、本校の車輛通学のルールと運転義務について説明を行いました。6/11～20の沖縄高専交通安全旬間でも引き続き交通安全啓蒙活動を行っているところです。昨年度からの統計では、幸い重大な交通事故は発生しておりませんが、学内ルールである車輛通学許可願の提出状況が低下しており、無許可車輛による通学が増加傾向にあります。長期休暇明けの運転免許取得者の増加とともに、学内への乗り入れ車輛も増える状況です。車輛通学をしている学生の保護者におかれましては、ご家庭で交通安全について話し合いを持っていただき、車輛通学許可願の提出についてもご指導賜りますようお願い致します。

本稿の締切後には、九州沖縄地区高専体育大会へ8団体が出場し、九州各地にて熱戦を繰り広げます。学生諸君の活躍を期待して筆を置きます。



寮務主事あいさつ

寮務主事 濱田 泰輔

本年度は14期生になる新1年生172名、3年次編入の留学生3名の新入寮生を迎えました。4月から総勢537名での生活が始まりました。

新入生の皆さんは沖縄高専での授業や寮生活に慣れてきていることと思います。入学直後は授業や実習など初めての体験に戸惑ったこともあったことと思います。その上、寮生活という共同生活に慣れるのは大変だったのではないのでしょうか。寮での生活は、寮生みんなで工夫や改善してより良くしていったほしいと思っています。そのためにもできる限り寮生会の活動に参加して、学生寮の運営に携わってもらいたいと思っています。

2年生以上の寮生の皆さんには、一人一人がそれぞれどういう生活をすべきか良く考えながら生活してほしいと思います。進級して学年が上がっていくにつれて寮日課をはじめ寮生活に不便さを感じるが増えてくるかもしれません。授業、研究、課題の作成、各自の学習に支障が無いよう各自の生活はきちんと自己管理して欲しいと思います。また、寮生の皆さんからの意見や提案等も寄せてほしいと思っています。

寮生の皆さんにとって、寮生活は生活の場あるいは通学の利便のためだけではありません。規律ある共同生活を通して自分の責任で行動し、生活する力を身につけると共に他の寮生のみんなのことも配慮し、皆で互いに助け合い、それぞれを尊重し、生涯の友情を育てて欲しいと思います。

寮生の生活には保護者の皆様さと学校の密接な連携が必要です。学校、寮へのご支援、ご協力およびご助言をよろしくお願いいたします。



後援会長あいさつ

後援会長 森脇 雅佳

本年度で後援会会長2年目になります森脇です。改めて宜しくお願い申し上げます。

昨年に引き続き沖縄高専メディア棟視聴覚ホールにおいて、年次総会を6月3日に開催いたしました。当日は多くの会員の出席があり、全ての議案が滞りなく承認されました。今年度は総会の後にキャリア教育に関する講演会・懇親会を催す三部構成とし、講演会では「沖縄高専に就職するまで」と題して、現在沖縄高専に勤める卒業生2名に発表していただきました。引き続き行われた懇親会では、教職員の方々にも多数ご参加いただき、大いに盛り上がりました。

さて、本会は沖縄工業高等専門学校における教育・研究事業を支援するとともに、会員相互の交流・連携を図ることを目的に活動しておりますが、実績をいくつかご紹介致します。

本会が力を入れて支援しております昨今の学生の課外活動における活躍ですが、昨年度は全国高専体育大会へテニス部・水泳部が出場、プログラミングコンテスト本選で自由部門特別賞・企業賞を受賞、パソコン甲子園本戦でベストデザイン賞（3年連続）の受賞をはじめ、様々な大会やコンテストに出場して優秀な成績を収めました。本年度も多くの学生の課外活動における活躍が期待されるところです。

また、学生の進路指導の支援については、キャリア教育センターを中心に教職員の皆様が精力的にインターンシップ先への訪問や新規進路開拓などに取り組んでいただいているほか、卒業生による学生を対象としたキャリア講演が行われており、本会としても、これらの取り組みが就職・進学の一助となることを考慮し、引き続き支援をして参りたいと思います。

最後に会員相互の交流・連携についてですが、本会は普段8つの支部に分かれて支部単位での活動をしており、各支部では会員の交流の場をつくるべく、様々なイベントを企画しています。各支部からの案内状が保護者の皆様のお手元に届きましたら、まずは開封して内容をご覧になり、積極的にご参加ください。学生も参加可能なイベントがあれば、ぜひお子様にもお声掛けください。皆様のご参加を楽しみにお待ちしております。



学生課長あいさつ

学生課長 野原 茂

日頃から、沖縄高専の教育・研究にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本校は、平成16年4月に学生を受け入れ今年で14年目に入り着々と伝統を築きあげています。

本校の学生は進学・就職で毎年顕著な実績を残しておりますが、各種コンクールでも、「第17回理工系学生科学技術論文コンクール」（日刊工業新聞社主催）で、「最優秀賞・文部科学大臣賞」を受賞しました。

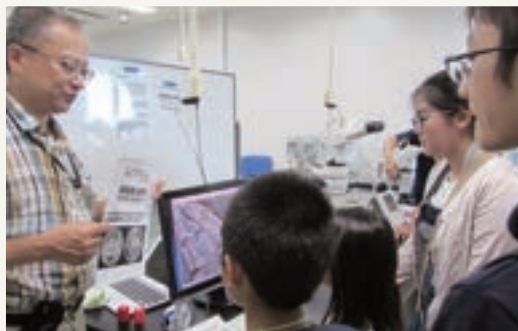
部活においては、第38回全国高等専門学校通信弓道大会において、本校弓道部が女子団体優勝及び個人でも優勝しました。

また、高専体育大会や、その他各種コンテストにおいても活躍しております。

本校では、学外での公開授業や出前授業、名護や那覇の産業まつりにおいて本校の教育・研究の紹介の出展など積極的に地域貢献にも参画しております。

毎年開催する7月のオープンキャンパス、8月のサマースクールや公開授業週間、那覇・宮古・八重山・本校において定期的な学校説明会を開催しておりますので、是非、一度沖縄高専に足をお運び願います。

沖縄高専では、教育だけではなく、学生生活が有意義に過ごせるよう教職員一丸となって努力いたしますので、関係各位のご協力を今後ともお願いいたします。



オープンキャンパス



学校説明会



第1 学年学級担任より

1 年 1 組学級担任 小池 寿俊

昨年に引き続き、今年度も1 年 1 組の学級担任をしております。またここ数年同様、「基礎数学Ⅰ」の担当として1 年 4 クラスを見えています。そのことを知っている在校生は、よく「今年の1 年生はどうですか?」と聞いてきます。私は学年の雰囲気を一言で表すのがあまり得意ではないので、「今年もみんな良い子達だよ」と返すのが決まり文句です。よく知っている学生には、続けて「君たちと比べて〇〇かな」と軽口をたたくこともあります。

という訳で、今年の1 年生の特徴を表すのは苦手なのですが、昨年と比較して目につくのは、欠席・欠課が少ないことです。5 月末の前期中間試験直前に、主に1 年生（特に一部のクラス）内でインフルエンザが流行しました。このままでは学級閉鎖になるのではないかと、我々教員一同は非常に心配し、保護者の皆様にもいろいろとご協力をお願いいたしましたが、中間試験以降1 年生の欠席・欠課は全体的に少なかったです。実際私の「基礎数学Ⅰ」の前期の欠課時数をざっと数えてみたところ、インフルエンザによる出席停止を除くと、昨年の半分近くになっています。理由はよく分かりませんし、さらに調べてみると一昨年も少なかったもので、単に昨年多かっただけかも知れませんが、元気に授業に出席できる学生が多いのはよいことです。

このように、学生がまずちゃんと授業に出席しているかが真っ先に気になりますが、次に心配なのは授業に集中して取り組めているかです。これが生活や体調、成績に直結しています。集中できていないことが多い学生にはいろいろな理由が考えられますが、最近では最も疑わしいのはスマホです。SNSや動画視聴等さまざまな用途がありますが、特にゲームによって生活のリズムを狂わされている学生が毎年見られます。いま一度ご家庭でスマホの使用ルールを話し合っていただければと思います。

一部には心配な学生もありますが、今年の1 年生も4 ヶ月半よく頑張りました。特に今年度は前期末が非常に遅い日程で、毎日暑い中、世の中の夏休み真っ盛り気分にも負けず、大きく体調を崩すこともなく皆期末試験を乗り切りました。夏休みにはそれらも含めてご家庭で前学期を振り返り、いろいろな話をなさってください。そして9 月末にはお子様を元気に高専に送り出していただければと思います。

学級担任としても、お預かりしたお子様方がより豊かで充実した学校生活を過ごせるよう、微力ながら尽力いたしますので、保護者の皆様には、引き続きご支援とご協力を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。



第2 学年主任より

第2 学年主任 山本 寛

こんにちは、平成29 年度2 年主任の山本です。私は数学関連の授業を担当しておりますが、実は数学が苦手です。そして作文は数学よりもさらに苦手です。学年主任になると年2 回、長い文章を書かなければならないことを知り、テンションが下がっています。私も1 年主任の森田先生のように、面白い文章をすらすらと書ける才能が欲しいです。

さて、沖縄高専は4 月に体育祭が行われる珍しい学校です。本年度も4 月29 日に体育祭が行われました。幸い晴天に恵まれ、大きな事故もなく終えることができました。運動部に入っていない学生は、日頃から学生寮と学校の往復だけで、運動の機会がスポーツ実技の授業くらいしかありませんので、いい運動になったのではないのでしょうか。保護者の皆様のご協力に心より感謝いたします。

6 月の前学期中間試験もなんとか乗り切りました。しかしここからが沖縄高専の学生生活で最も苦しい時期に入ります。7 月も後わり頃になると地元の高校に通う友達は夏休みです。皆楽しくお休みを楽しんでいます。LINE や Twitter や Facebook に、「友達とライカムなう」などと投稿しています。「家族でハワイで一す。ワイキキいい天気!」などと投稿しているお友達もいるかも知れません。それを横目で見ながら本校の学生は、前学期期末試験の影におびえつつ勉強をする訳です。並の精神力ではありません。

前学期を乗り切れば、夏休みがやってきます。さらに後学期は、高専祭、冬休み、お正月と、イベントが目白押しです。そんな訳で後学期はあっというまに過ぎ去ります。お正月の前にクリスマスというものもあるようですが、沖縄高専ではどうやら一部の学生にしか関係のないイベントと認識されており、今ひとつ盛り上がり欠けるようです。

私は担任として大したことはできませんが、たまに学生からアコースティックギターによる弾き語りや伴奏を依頼され、放課後の教室で演奏をして、楽しい学生生活を応援しております（写真は、演奏にもちいているギターです）。





機械システム工学科

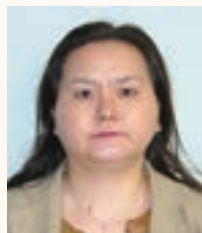
学科長 富澤 淳

皆さんが活躍するこれからの社会は、どんなものでしょうか？どんな技術が開発されて、利用されているのでしょうか？現在、第4次産業革命と言われていますが、IoTやAIやバイオテクノロジーなどの技術が次々と実用化され、より便利な社会となっていることでしょうか。さらに予想もしないような発明がなされているかもしれません。さて、来るべき社会において我々はどんな生き方や働き方をするのでしょうか？

私が、これからの皆さんに最も重要であると思うことは、『自分の頭で考える習慣をつける』ということです。これは、今全盛のマニュアル化やパターン化と全く対極にあるものです。人間は本来楽をしたいという傾向が強いようです。そのため、ある程度仕事や勉強に慣れると、一定のパターンを見出し、あまり考えずに同じような対処をするようになりがちです。すなわち、この時点で、人間の頭は思考停止に近い状態になるわけです。翻ってみると、『自分の頭で考える』ということは、なかなか難しいですね。学校でもある特定の事柄については教えることができますが、『自分の頭で考える』のを体得していくのは、自分自身の努力でしか出来ません。一方、基礎知識がない状態から、自分で考えることは出来ません。まず基礎的な学力を身につけることは必要です。そのうえで、大切なことは、定期試験や入試で良い点をとることだけを目指にするのではなく、もう少し目線を上げることだと思います。世の中のかっこいい人間（物理学者とか企業創業者とか）に憧れるとか、出来る同級生や先輩を見て自分もこうなりたいとか、そんなことを少し思っただけで勉強をすすめることができたと思います。最近、一般的に効率的に勉強することに価値をおく（無駄な努力はしたくない）人が多い気がして、心配になります。そのとき直接役に立たないと思われる勉強も、後で非常に役に立つことが多いものです。

技術の進歩により、将来ますます人間が楽をする世の中になっていくでしょう。機械工学の分野では、研究や製造現場において、昔とは比較にならないくらい正確で大量のデータ収集が可能になっています。また、コンピュータの発展により、固体や流体の大規模なシミュレーションが可能になっています。われわれ技術者にとって、このような大量のデータや計算結果を正しく解釈し、体系化・一般化できるかが勝負となるでしょう。この条件ではこうなるといふ結果だけを見るのではなく、思考停止せずに、その先には何か一般的なものがあるはずだといつも考えることが大切です。我々が求めているのは、個別の結果のみならず、他の場合にも適用出来る普遍性なのです。ややとすると、大規模なシミュレーションが現実の実験と同じように扱われ、引き出される結果も現象論に陥っていることが多いような気がします。重要なのは、①実験や計算の目的を明確にすること、②仮説を立てて、結果を予測すること、③予想と合わなかった場合にとことん原因を考えることです。

これまで日本のものづくり産業は、現場とスタッフ全員が一致協力して、高品質の製品を製造してきました。世界でも珍しいメンタリティを持った国とされています。すばらしい時代に向かって、一人ひとりが実力をつけて、頭をフル回転させてがんばっていききたいものです。明るい未来を見つめつつ、今という時間を大切に、元気にやっていきましょう。



情報通信システム工学科

学科長 兼城 千波

沖縄高専は今年で14期生を迎え、新たな年度をスタートさせました。「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する」という理念のもと、社会に貢献する人材を輩出すべく、日頃の授業だけでなく、部活動を含めて、様々な形で教職員は学生の皆さんをサポートしています。

多様化する学生、その時代、その時々で変わりゆく社会ニーズに即した人材を育成することは簡単なことではありません。特に、15～20歳という著しい成長期においては、様々な経験をする機会はたくさんあります。昨今の多様化した社会においても、必要とされる人材というのは、「人間力」のある人材です。一言で「人間力」といっても難しいもので、一般的には「知的能力的要素」「社会・対人関係力的要素」「自己制御的要素」を備えることを言います。「知的能力的要素」は、基礎学力を基盤とし、専門的な知識を持ち、それを持続していく力であり、高専のカリキュラムの中では、一般科目・専門科目による知識の修得になります。「社会・対人関係力的要素」は、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力のことで、授業におけるPBLや部活動、課外活動で培われるものです。「自己制御的要素」は、知的能力や社会・対人関係力を最大限に発揮するための、意欲や心掛けとそれに基づく行動です。机に向かった勉強だけでは培われない素養の方が社会では多く求められてきます。

“今、何をすべきか？”をその時々できちんと考え、人の話をしっかり聞き、行動することが、自分自身の成長へと繋がっていきます。これまでと異なった生活環境、学習環境は精神的にも体力的にも、皆さんに少なからずストレスとなり、その過程の中で辛いことも逃げ出したいこともあるかもしれません。そのときは、周りの友人、先輩や保護者、教員に相談してください。相談することも、成長への糧となります。また、成長していく中で、自分の適性を見つけ出してください。しっかりと自分の個性を考え、計画的に行動すること、諦めずにやり遂げること、それがやがて「力」となって、貴方たちの道を拓いていきます。

さて、「情報通信システム」に関わる分野は非常に幅広く、スマートフォンや家電製品の他、様々な電子機器の制御に至るまで世の中の経済活動を支えている分野です。1年生から学ぶことも多く、数学や物理といった基礎的なところから、電気電子回路やプログラミングといった電気電子工学分野・情報工学分野と広い領域を網羅しながら学修していきます。長い目で将来を見据えれば、電子機器を操る電子・情報・通信系技術者は常に必要とされる人材です。必ず、自分が学修してきたことが、人と関わってきたことが活かされる日がやってきます。将来の自分を信じて、今、何をすべきかを考えて、一歩ずつ前に歩き出しましょう。



メディア情報工学科

メディア情報工学科長
伊波 靖

近年、インターネットが世界的に普及し、今やごく普通のインフラとして利用され、社会そのものがインターネット無しでは成立しえない状況になってきました。

その中で、コンピュータは官公庁、学校やビジネスの場で使用されるだけでなく、家電製品や自動車などにも組み込まれ、これらのコンピュータはネットワークで結ばれるIoT社会の到来を迎えています。

メディア情報工学科ではこのような社会の中で、コンピュータを使いこなせる技術者の育成を目指しています。

本学科では、コンピュータのしくみやコンピュータを働かせる基本的な技術を低学年で学びます。

この基本的な技術を土台として、コンピュータを応用した「ロボットや身近な機器をコンピュータで動かす技術」、「コンピュータネットワークのしくみや情報セキュリティ技術」、「画像や映像をコンピュータにより処理加工する技術」の3つの分野の応用技術を高学年で学びます。

また、本学科では学内での教育だけにとどまらず情報処理技術者試験を始めとする各種資格取得や高専パソコンコンテストや情報オリンピック、パソコン甲子園等全国レベルのコンテスト参加に力を入れています。

さらに昨年から全国的な情報セキュリティイベントにおいて優秀な成績を収める学生が出てきており、今後重要となる情報セキュリティの教育にも力を入れています。

学科の近況を紹介します。本学科を3月に卒業した5年生の進路決定は100%を達成し13名が進学、26名が就職し、新しい環境の元で頑張っています。

3年生は秋に関東方面に研修旅行に行きます。将来の自分のキャリアを考えるきっかけにしたいと思います。

4年生は8月中旬から9月下旬にかけて企業にインターンシップをします。自分の進路を真剣に考える時期です。

5年生はすでに8割以上の学生が就職、進学の進路を確定させています。まだ決まっていない学生も頑張っています。さらに、高専で学んだことの集大成である卒業研究に取り組んでいます。

メディア情報工学科はこれからも社会で実践的に活躍できる技術者の育成に努めてまいりますので、ご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



生物資源工学科

生物資源工学科長
三枝 隆裕

今春、生物資源工学科からは、5年生38名、専攻科生5名が、新しい進路へ歩んで行きました。現代社会は、食糧やエネルギー不足、環境問題、高齢化、経済摩擦、医療や健康問題を始め多くの問題を抱えています。これらの問題を解決するため、生物資源工学科では、生物資源の有効活用や生物の持つ無限の可能性を発揮させ人類に役立てる新しい技術の開発に貢献でき、社会と調和できる人材の育成を進めています。

今年度もまた、来春の卒業生の就職、進学戦線が始まりました。今年は、昨年より1ヶ月就職活動が早まり、日々、希望する進路先にチャレンジしています。そんな中、経験の少ない学生達に、人工エピソードなどを交えて話し励ましています。例えば、人類初の有人宇宙飛行をしたガガーリンに関する逸話。ロシアのボストーク1号の乗員の最終選考に残ったのは、チトフとガガーリンだったが、選考委員の多くは、技量に差がないので体重が2kg軽いチトフに決定しようとしていました。しかし、責任者のコロリョフ博士は、「荷物を2kg下せばいい、世界初の乗員はガガーリンだ。ガガーリンは、素晴らしい笑顔をしている。笑顔はいつも心が安定しており良い判断ができる証拠だ。」と述べ、ガガーリンに決定しました。彼に笑顔がなかったら「地球は青かった」の名言はなかったことになります。

生物資源工学科では、バイオテクノロジー技術、分析技術、機能性を有する食品や医薬品の開発技術、実践的な製造・管理技術を習得し、産業界や公的機関の成長を中心となって支える人材の育成を進めています。また、高度な技術面の習得だけではなく、人間性、協調性、国際性、創造性に溢れ、環境への配慮や地域貢献ができる人材作りに力を注いでいます。これからも、皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



沖縄高専の温室



総合科学科

総合科学科長 成田 誠

総合科学科の教員は自然科学や科学技術の理解・応用のための基礎知識・学力を身につけるための教育を行っています。大学と同様、高専も高等教育機関の一つであり、授業科目は所謂一般科目と専門科目に大別されています。この一般科目を担当するのが総合科学科の教員です。現在総合科学科には、文科系（国語2名、英語6名、社会1名）、理科系（数学5名、物理学1名、地学1名）、体育系（健康科学2名）の計18名の教員が在籍しています。

担当する学年は主に第1、2学年の低学年であり、授業をはじめとする学習指導のみならず、担任として学生生活指導もその任務となります。実際、18名中16名が主担任または副担任に就きます。沖縄高専では第1、2学年において混合学級制（専門4学科から約10名ずつ、1クラス約40名で4クラスを構成）を採用しており、学科の垣根を越えて学生同士が交流できるのみならず、我々総合科学科の教員も学科の区別なく学生と関わる機会が与えられています。教授する内容が一般科目、基礎科目であるが故当然ではありますが、この沖縄高専に在籍する全ての学生と必然的に関わるのは総合科学科の教員のみで、ここに大きな充実感を得られると共に、強い責任を感じます。

私見を少々。基礎科目の重要性を、基礎を学んでいる最中の者が理解することは難しいことでしょう。恐らく、基礎を「（専門に比べて）簡単なこと」、「つまらないこと」、「専門では不要になること」などと思っているからでしょう。残念ながらこれらは全て誤解であることに学生自ら気づくこととなります。高学年更には専門職に就き、専門科目・知識を学習・使用するようになってから、後悔と共に。故に楽観することなく、悔ることなく飽くなき反復練習によって基礎固めをしてもらいたいと思います。一方で、低学年時の成績の良し悪しに一喜一憂することはないと考えます。大学受験などが控えているわけではないのですから、「この日までに100点満点中80点取らねばならない」といった学問を狭く捉えること（ペーパーテスト至上）は無意味です。卒業するときに科学技術者として真摯な知識と能力と倫理観を備えていることこそ重要です。それには前述同様、日々の努力以外にありません。そしてその努力は必ず身を結びます。たとえ時間がなかったとしても。

結びに、総合科学科教員一同教育に尽力して参りますので、特に低学年の保護者の皆様とは吉凶禍福何れの際にも接する機会が多いかと思いますが、どうかよろしくお願い致します。



専攻科長あいさつ

専攻科長 眞喜志 治

専攻科に対して、間違ったイメージを持っていませんか？専攻科は『イタイ』思いをするところでも、『カユイ』思いをするところでもありません。ただ、時として『キツイ』思いをすることがあります。でも、その『キツイ』思いは、その後の成長に確実につながるもので、ただ『キツイ』だけで終わることはない（度が過ぎる場合を除いて）保障します。そもそも、明確な目標を持っていれば、『キツイ』と感じることはないと思っています。専攻科に進学する際には、「専攻科で何をしたいのか」、「専攻科を出た後どうするのか」あるいは「何者になりたいのか」に対して、自身の考えをしっかりと持っている必要があるのではないのでしょうか？本校の専攻科は、大学院修士課程を意識して組み立てられています（先人がやってしまったことなので責任を負いかねます）、『なんとなく』専攻科に進学した場合は、そのレベル、スピードについていくことは『キツイ』かもしれません。そんな専攻科ですが、進学することのメリットはそれなりにあると思っています。ご存知かと思いますが、高専卒業生あるいは高専の教育システムは社会において、それなりに高い評価を得ており、大学や大学院からの評価も例外ではありません。その証拠に、多くの大学院で専攻科生を対象とした推薦枠が用意されています（興味があれば調べてみましょう）。これは、なかなか注目すべきポイントだと思います。なぜなら、推薦に値する成績を収めることができれば（これが結構大変ですが）、選択肢が格段に増え、未来が大きく拓けることを意味しているからです。結構、学業へのモチベーションにつながるように思えるのですが、気のせいでしょうか？今どきの言葉で表現すれば、「ワンチャンある」といったところでしょう。

このように、専攻科に進学するということは、ある程度の覚悟と将来のビジョンを持つことが要求されることになりますが、見通しの明るい未来を手に入れることが可能で、ローリスク・ハイリターンだと言いたい気持ちで一杯になります。

専攻科は、誰に対しても驚くほど開かれた存在です。専攻科に関する如何なる情報も、しっかりしていると思いい込みたい先輩たちや明るく、必要以上にフレンドリーな“その時の”専攻科長から簡単に引き出すことができます。“今の”専攻科長としては、沖縄高専に在籍するすべての学生が、一度は専攻科に興味を持ってくれることを期待しています。



発表を頑張る専攻科生の雄姿

教育福祉推進室より

教育福祉推進室では、前期期間中にカウンセラー講話や助産師による性に関する講演会、精神健康調査や Hyper-QU（学校生活における学生の意欲や満足感、クラス集団の状況の調査）を行いました。学生の精神健康・学習環境を整備しながら、独りではない事、一緒に考えて支えてくれる環境がある事をこれからも伝えていきます。

困ったことや悩みがありましたらカウンセリングをご利用ください。保護者のみの利用も可能です。カウンセリングの予約は、保健室（電話：0980-55-4054、電子メール：hoken@okinawa-ct.ac.jp）にお問い合わせください。

★夏季休業中もカウンセリングを実施します。★



教育福祉推進室長
玉城 龍洋



保健室より

～汗と上手につきあうために～

夏は汗が気になる季節。汗は、汗腺から水分や塩分、尿素、アンモニア等の成分が皮膚の表面に流れ出ます。汗腺にはエクリン汗腺、アポクリン汗腺と種類があります。エクリン汗腺から流れ出た水分が蒸発するときに体の熱を奪い体温を下げる役割を担っています。しかし、暑さで大量に汗をかくと水分とその他の成分が必要以上に流れ出ることで脱水症状を起こしやすく、あまり汗をかかない生活をしていると汗腺の機能が低下し、暑くても汗をかかないため体温が下がらず熱中症の原因になります。汗腺の機能の低下を防ぐため適度に汗をかくよう日頃からウォーキングや軽いジョギング、ストレッチなどの運動を行い、エアコンなど使用中は室内と屋外の温度差を 5℃以内に心がけることや入浴はシャワーだけで済ませるのではなく 38～40℃のぬるめのお湯で半身浴（お湯の量はみぞおち辺りまで）を行うなど生活に取り入れてみましょう。汗で失われる水分の補給も忘れずに。

汗には他にも役割があります。又、いい汗悪い汗などと言われます。調べてみるのも良いでしょう。



保健室はメディア棟 2 階にあり、看護師 2 人が変則で在室しています。体調不良時やケガの時の対応、健康相談、こころの相談、身体測定、雑談等を行っています。（看護師：高江洲・安里）

▶ TEL：0980-55-4054 ▶ e-mail：hoken@okinawa-ct.ac.jp



地域連携推進センター》*****

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発、及び人材の育成に取り組んでいます。

主な活動内容として、毎月定例の技術相談会の開催、知的財産セミナー、企業技術者等との懇談会、沖縄高専フォーラム等の実施、共同・受託研究、受託試験、技術相談（随時）の受け入れを行っております。さらに地域の各種イベントへ出展し、本校の教育研究内容を発信しています。

また、地域交流推進の一環として、小中学生を対象に沖縄高専の設備を利用した体験授業や小中学校等での出前授業、公開講座等、科学やものづくりの楽しさを実際に体験してもらう活動を行います。



やんばの産業まつり



沖縄高専フォーラム



うるま市・
金武町出前授業



キャリア教育センター活動紹介》*****

キャリア教育センターは学生が自分の進路を自分で決める力を養うための支援と進学・就職活動の支援をしています。

例えば、4 学年必修「インターンシップ」では企業実習の受け入れ先を確保することや、学生と企業とのマッチング、ビジネスマナー講座を実施しています。

最近ではインターンシップが企業の採用活動と関連することもあり全国的にもインターンシップ希望者が増えています。そしてインターンシップ参加者の選考をする企業も増えています。本校「インターンシップ」の目的に賛同し協力してくださる企業・団体とともに学生全員が企業で実習ができるよう支えていきたいと考えています。

また、学生が業界のことを知り自身の職業観を確立していくうえで企業技術者の方からの働きかけはとても重要です。

キャリア教育センターは本校の地域連携推進センター、グローバル交流推進センター、そして地域企業と連携しながら取り組みを進めています。



グローバル交流推進センターの 活動紹介

グローバル交流推進センター長
タンスリヤボン スリヨン



沖縄高専グローバル交流推進センターは、国際社会に広く貢献できる人材の育成のため、沖縄高専の学生の海外派遣、外国の研究者・留学生の受け入れに関する事業を実施し、国際交流の連携を推進するために設立されました。本センターの、国際的に活躍することができる学生の育成を目指した取り組みの一環をいくつか紹介します！

2016～2017年度の活動

2016

Jun.

- タイの King Mongkut's University Of Technology North Bangkok (以下「KMUTNB」という。) から3名の留学生がインターンシップのため来校しました。

Jul.

- 名護市国際交流協会主催の第10回日本語弁論大会に本校の留学生が参加：国際交流会館で開催された本大会に、本校から4名の留学生が参加し、1位から3位までを独占しました。
- 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN～日本代表プログラム～」に3名が合格：昨年度に続き、大学全国コースに1名、高校生コースに2名が合格し、それぞれがシンガポール、ベトナム、タイ、ネパール、オーストラリアにトビタチました。
- さくらサイエンスプランの実施：日本の最先端の科学技術への関心を高めることで、将来日本の大学・研究機関・企業で学び・働く海外の優秀な人材の育成に貢献することを目的とし、沖縄高専のプログラムでは、国立台北科学技術大学において選抜された10名の学生を招聘しました。
- 第1回グローバル講演会：台北駐日経済文化代表處・那覇分處の蘇處長をお招きし、「台湾から見た沖縄・日本、沖縄・日本から見た台湾」というテーマで今年度、第1回目のグローバル講演会を開催しました。
- Srinakharinwirot 大学と学術交流協定を締結：Srinakharinwirot 大学の Dr. Arusa Chavanalikit 学部長はじめ4名の教員を沖縄高専にお迎えし、調印式が執り行われました。



Aug.

- 台北技科大サマープログラム：本プログラムは、中国語と英語を学びながら、企業見学、共同実験、異文化体験、学生交流、自由行動を通じ、自律的に行動できるグローバル人材の育成を目指したプログラムです。総勢65名が参加しました。



Oct.

- 本校2年生がシリコンバレー研修に参加：本校メディア情報工学科の学生が、次世代リーダーを育成するプロジェクト「Ryukyufrogs (琉球フログス)」の8期生に選出され、8月14日から10日間 Google 本社やスタンフォード大学、現地ベンチャー企業での研修に参加しました。
- UTP-KOSEN シンポジウムにて本校の学生が Best Presentation 賞を受賞しました。本校専攻科生が国際シンポジウム (ISTS2016) で Presentation Award と Group Award を受賞しました。
- 本校専攻科修了学生が「～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」第2回留学成果報告会でエヴァンジェリスト特別賞を受賞しました。



Nov.

- 本校キャリア教育センターと合同で、宜野座村文化センターがらまんホールと講演会『ハワイアンフラとハワイ沖縄移民』を共催しました。
- 『2016 ドローンキャンプ in 沖縄高専』を開催しました。本プログラムでは、タイの学生と本校学生が本プログラムに参加して国際交流をしながらドローンを題材とした技術交流を行いました。

Dec.

- 第2回グローバル講演会：上智大学文学部の池田真教授をお迎えし、FD・SD 実施委員会との協同で『教育方法のグローバル化に向けて』というテーマで講演会を開催しました。

2017

Jan.

- 第3回グローバル講演会：『グローバル実体験ーさあ、みんなで来て、見て、聞いて、開こう、世界への扉！』が開催されました。

Jun.

- タイの SWU からの短期研修生9名を受入れました。

Jul.

- 日本語弁論大会。本校から3名の留学生が出場し、その中で2位の賞を獲得しました。
- スロベニアの University of Maribor との学術協定を締結しました。

Aug.

- 台北技科大サマープログラムへの派遣。

Sep.

- タイの KMUTNB での学生交流プログラム…など



WSB(World Students Bridge) の活動

グローバル交流推進センターは学生主体の国際交流委員会、通称ワサビと協同し、沖縄高専のグローバル活動を行っています。留学生との交流会やハロウィンイベントなど、様々なイベントを通して、日本にはない多様な文化に触れ合っています。



地域の文化の最前線を学ぶ

日本文化論（専攻科2年生対象）では、授業の一環として「地域の文化」の現場で活躍されている方々から直接お話を伺う特別授業を組み込んでいます。

5月19日（金）には、生物資源工学科の玉城康智准教授から、沖縄の歴史や東南アジアとの結びつきに触れつつ、泡盛を中心とした講義が行われました。

5月20日（土）には、名護アグリパークにおいて、農業生産法人クックソニアの芳野幸雄氏・小泉伸弥氏からレクチャーを受けました。農作業体験や地元産の食材を活用したランチの試食も交えて、県外からの移住や新規就農者支援、製品の流通に関する経営論、またより多くの顧客を得るためのさまざまなアピール戦略などについてお話を伺いました。

6月2日（金）には、宜野座村文化センターがらまんホールにおいて、プロデューサーの小越友也氏からレクチャーを受けました。地域における公共ホールの役割や各種事業の企画・運営に関する講義の後、ふだんは入ることのできないバックステージや各設備を見学させて頂きました。

文化経済学や文化政策学の基礎を学び、その上で食文化や芸術文化の最新の動向を目の当たりにした学生たちは、総括として独自の地域活性化プランを提案しました。



農作業体験



宜野座村文化センターがらまんホール小越友也氏（右端）による最新設備についてのレクチャー

これからも皆さんの素敵な挑戦を応援していきます！

沖縄高専 HP 内
グローバル交流センターサイト

<http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=73785&menuid=14651&funcid=1>



学

生

会

行事・イベント

沖縄高専には一年にたくさんのイベントがあります。学生会など学生が主体となってイベントを運営しています。

会長挨拶



平成29年度学生会長
西銘 かな

平成29年度学生会長を務める、メディア情報工学科4年の西銘かなと申します。昨年度の学生会は、たくさんの楽しい行事を催し、良い思い出がたくさんできました。今年度も、そんな素敵なイベントを開催していきたいです。また、学生一人一人が、新たなことに挑戦する勇気が出せる、前向きな雰囲気を作れるように、頑張ります。沖縄高専という1つのチームとして、前進していきましょう！

部活動紹介

体育祭



高専祭



寮生会より



男子寮長

生物資源工学科3年
大嶺宏仁

これから高専への進学と入寮を考えている中学生のみなさんへ。

こんにちは、

男子寮長の大嶺宏仁です。

学生寮は500人近くの学生が共同生活を送っております。学生寮の為、規則や門限などもあり、入寮したばかりの時は戸惑うことも多いと思いますが、寮は本当に楽しいです。友達ができなかったらどうしよう、一人で朝起きられるかな、など、不安がたくさんあると思います。私自身、入寮する前は不安で仕方ありませんでした。実際、寮は集団生活なので不便なこともありますが、いつでも周りに友達がいて家より寮の方が好きになる人も多いです。親元を離れた寮での暮らしは洗濯や勉強など自己管理も身につく、あなたの良い経験になると思います。

今年度一年間、みんなが楽しく過ごせる寮を作りたいと思います。よろしくお願いします。



女子寮長

生物資源工学科3年
翁長京香（左）

平成29年度女子寮寮長を務めさせていただいている翁長京香です。

私自身、初の寮長をさせていただいているのですが、寮長という役職は思ったよりも多くの仕事があります。今まで気づいていなかっただけで、多くのところで寮長が関係しているイベントや企画などがあることを知り、今まで以上に寮生の意見を多く取り入れ、寮生が住みやすい、よりよい寮を作っていければ良いなと思っています。

初めてで不安も多いのですが、寮生会で協力し合い頑張っていきたいと思っていますので、どうぞ、よろしくお願いします。

寮生会活動報告

4月24日（月）に避難訓練を行いました。男女保安委員長、保健衛生委員長、指導寮生長らが協力し合い、一人一人がスムーズな移動を心がけて取り組んだことで無事に避難訓練を終えることが出来ました。

5月20日（土）、7月8日（土）には特例大清掃を行いました。80人以上の寮生が参加し、寮の清掃に当たりました。



オープンキャンパス開催

平成 29 年 7 月 22 日（土）にオープンキャンパスが開催されました。オープンキャンパスは地域の方に本校の教育や学校生活、活動を知っていただくためのイベントです。学科や専攻科で学ぶこと、学校の取り組み、寮生活、科学技術に親しみを持つことなどについて企画を考え準備を進めました。今年度は約 850 名がオープンキャンパスに訪れ、どの企画にもたくさんの参加がありました。これからも本校の教育・研究・地域貢献について地域みなさまに理解を深めていただき、ともに地域を盛り上げていく活動を推進してまいります。



サマースクール開催

平成 29 年 8 月 19 日（土）に開催したサマースクールでは中学生約 200 名が体験授業に取り組みました。学科や航空技術者プログラムの専門をテーマとした授業では、ティーチングアシスタントの学生と一緒に興味津々で楽しく、そして真剣に学びました。本校で学ぶことや実験・実習がどのようなものなのか、中学生によくわかっていただけたようです。



平成29年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会 及び沖縄県高等学校総合体育大会の結果について

平成29年7月8日(土)～23日(日)に開催された「平成29年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会」において、本校から弓道部、バドミントン部、水泳部、ハンドボール部、硬式野球部、バスケットボール部、卓球部及びテニス部が出場し、九州地区の各高専と熱戦を繰り広げました。

特に、女子バスケットボール部とテニス部(男子団体)は優勝、水泳部は男子800m自由形で第3位、女子100m平泳ぎで第2位という優秀な成績を収め、全国大会に出場することとなりました。

また、平成29年5月26日(金)～31日(水)に開催された「平成29年度沖縄県高等学校総合体育大会」では、本校からバスケットボール部、卓球部、サッカー部、バドミントン部、剣道同好会、弓道部、陸上同好会、ハンドボール部及びテニス部が出場し、県内の高校と対戦しました。

同大会では各部・同好会ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。

その中でも、特に陸上同好会に所属する兼城凜多君(2年機械)が棒高跳びで優勝するという非常に優秀な成績を収めました。兼城君はその後、6月15日(木)～18日(日)に熊本県にて行われた「九州・南九州高校総体」でも第4位という好成績を収め、7月28日(金)～8月2日(水)に山形県にて行われた「全国高校総体」に出場しました。「全国高校総体」では残念ながら予選敗退となりましたが、今後の活躍が期待される素晴らしい結果となりました。

最後に、7月21日(金)に全国大会に出場が決定した部・同好会から、校長に地区大会での成績が報告されました。その後、全国大会に出場予定の選手から、大会出場に向けての抱負が述べられた後に、校長から選手たちに向けて『有意義な大会となるようベストを尽くして欲しい』との激励の言葉が贈られました。報告会の終わりに出場選手全員で記念撮影を行い、終始和やかなムードで校長への報告会を締めくくりました。



平成29年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会結果一覧

平成29年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。

競技種目	競技結果		備考
テニス(男子)	【団体戦】 男子 優勝	【個人戦】 ダブルス 根路銘詠一・比嘉祥吾ペア 準優勝 シングルス 木村有 ベスト4	【全国大会出場】 男子団体 ダブルス 根路銘詠一・比嘉祥吾ペア
テニス(女子)		【個人戦】 ダブルス 小濱ひろ・小濱夏実ペア 準優勝 シングルス 小濱ひろ ベスト4	
バスケットボール(男子)	予選リーグ敗退	沖縄22-89北九州 沖縄41-73熊本(八代)	
バスケットボール(女子)	予選リーグ 沖縄88-33都城 沖縄54-57佐世保	決勝トーナメント 沖縄86-65熊本(八代) 沖縄59-47有明(優勝)	【全国大会出場】
バドミントン(男子)	【団体戦】 男子 1回戦敗退	【個人戦】 ダブルス 山城翔吾・大嶺宏仁ペア ベスト8 金城来哉・與那嶺佑也ペア 1回戦敗退 金城一聖・國吉結月ペア 1回戦敗退 シングルス 金城一聖・金城来哉・與那嶺佑也・山城翔吾・國吉結月 1回戦敗退 大嶺宏仁 2回戦敗退	
バドミントン(女子)	【団体戦】 女子 1回戦敗退	【個人戦】 ダブルス 金城伶奈・喜納瑠夏ペア 2回戦敗退 富永万結実・石原さきペア 1回戦敗退 シングルス 喜納瑠夏 1回戦敗退 金城伶奈 3回戦敗退	
ハンドボール(男子)	予選リーグ敗退	沖縄13-18熊本(八代) 沖縄22-24都城	
ハンドボール(女子)	女子(エキシビジョンリーグ) 準優勝	沖縄10-25有明 沖縄20-10北九州	
卓球部(男子)	【団体戦】 予選敗退	【個人戦】 ダブルス 山端大智・親富祖元希ペア 1回戦敗退 上地泰慧・大西渡ペア 1回戦敗退 シングルス 山端大智・親富祖元希・上地泰慧・大西渡 1回戦敗退	
硬式野球	トーナメント 1回戦敗退	沖縄7-10北九州	
水泳(男子)	【男子50m自由形決勝】 【男子400m自由形決勝】 【男子800m自由形決勝】 【男子100m背泳ぎ決勝】 【男子200m個人メドレー決勝】 【男子4×100mメドレーリレー決勝】 【男子4×100mフリーリレー決勝】	7位 新崎高弘 8位 神山竜治 3位 島袋歩 7位 山城一斗 5位 新垣友一朗 7位 山城一斗・新垣友一朗・宮里佳明・新崎高弘 7位 島袋歩・宮里佳明・新崎高弘・山城一斗	【全国大会出場】 【男子800m自由形決勝】3位 島袋歩
水泳(女子)	【女子100m平泳ぎ決勝】 【女子50mバタフライ決勝】 【女子50m背泳ぎ決勝】 【女子4×50mフリーリレー決勝】	2位 知念優奈 4位 知念優奈 6位 仲村玲奈 3位 知念優奈・仲宗根綾乃・中野貴稀・仲村玲奈	【全国大会出場】 【女子100m平泳ぎ決勝】2位 知念優奈
弓道	【団体戦】男子 予選落ち 女子 予選落ち	【個人戦】男子 予選落ち 女子 予選落ち	



図書館より

沖縄高専図書館では、工学、自然科学系を中心とした専門書のほか、一般教養に役立つ図書や小説、雑誌、視聴覚資料など、約7万冊の資料を所蔵しています。全て開架されているので、利用者は全ての資料を直接手にとって見ることができます。また、地域貢献のため、一般の方々にも広く開放し、閲覧・貸出等のサービスも行っています。英語多読用の図書も約1万6千冊揃えており、1人5冊まで貸出も可能ですのでどうぞお気軽にご利用ください。



○ 図書館の開館時間

【通常期】平日 8:40 ~ 20:00 土曜 9:00 ~ 17:00 (※日曜・祝祭日は休館)

【休業期】平日 8:40 ~ 17:00 (※土日・祝祭日は休館)

図書館ホームページ (<http://www.okinawa-ct.ac.jp/menuIndex.jsp?id=74144&menuid=14875&funcid=28>) も併せてご覧ください。

○ 座席数：108席 (延面積：740㎡)

○ 蔵書冊数：約7万冊 (うち洋書約2万冊)、視聴覚資料 約1,700点

○ 雑誌：約600種 (継続購入72誌)

○ 新聞：7紙 (うち英字新聞1紙)

○ 年間貸出冊数：27,143冊 (平成28年度実績)

○ 学外者への貸出：ご希望の方へ「利用証」を発行します。
「図書館利用願」(図書館カウンターにて配布)へ必要事項を記入し、「身分証」を提示してください。

(図書館への連絡：直通 0980-55-4037)



平成28～29年度 人事異動について

平成28年10月1日付け異動

【昇任】

総務課施設係 専門職員 嘉陽 司

平成28年11月1日付け異動

【昇任】

学生課寮務係 係長 新里 牧

【採用】

学生課学生係 一般職員 糸洲 佑紀

平成28年12月1日付け異動

【採用】

総合科学科 講師 緒方 勇太

平成29年1月1日付け異動

【採用】

総務課研究連携推進室 一般職員 玉城 佳世子

平成29年2月1日付け異動

【採用】

情報通信システム工学科 准教授 中平 勝也

平成29年4月1日付け異動

【採用】

情報通信システム工学科 助教 相川 洋平

情報通信システム工学科 助教 亀濱 博紀

総務課総務係 一般職員 津波 諒磨

【再雇用】

機械システム工学科 特任教授 宮田 恵守

【転入】

学生課 課長 野原 茂

学生課学生係 一般職員 宮城 佑造

【昇任】

総務課人事係 主任 前山 由香里

総務課契約管理係 主任 佐加伊 裕也

平成29年7月1日付け異動

【転入】

総務課 課長補佐 西原 盛浩

総務課財務係 一般職員 喜久川 大樹

学生課学生係 一般職員 宮城 智香

平成29年度(後期)行事予定表

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月			3 月		
1	日		1	水		1	金		1	月	元日	1	木		1	木	
2	月	航空技術者プログラム履修者選抜 願書受付期間	2	木	臨時休講日(高専祭の振替休日)	2	土		2	火		2	金		2	金	
3	火		3	金	文化の日	3	日	ロボコン全国大会	3	水		3	土		3	土	
4	水		4	土	高専祭(登校日)	4	月	火曜日の授業	4	木		4	日		4	日	
5	木		5	日		5	火	予備日 研修旅行(3年)	5	金		5	月		5	月	
6	金	消防避難訓練	6	月	臨時休講日(高専祭の振替休日) ブックハンティング (図書館及び学生図書委員会)	6	水	予備日 キャリア講演会(1年合同)	6	土		6	火		6	火	九州地区総合技術研究会
7	土		7	火	月曜日の授業	7	木	予備日	7	日		7	水	木曜日の授業	7	水	
8	日	プログラミングコンテスト (～9日まで)	8	水	キャリア講演会(2年) フルフライトシミュレーターツアー (冬季)選抜試験	8	金	予備日 フルフライトシミュレーターツアー (冬季)	8	月	成人の日 開寮	8	木	学期末試験(本科5年・専攻科) 予備日(本科1～4年)	8	木	入学説明会
9	月	体育の日	9	木		9	土	専攻科社会人選抜・2次募集 学生寮第5回特例大清掃(寮)	9	火	開寮式 月曜日の授業	9	金	学期末試験(本科1～4年)	9	金	
10	火		10	金		10	日		10	水		10	土		10	土	
11	水		11	土	パソコン甲子園～12日まで	11	月		11	木	学習到達度試験 予備日	11	日	建国記念の日	11	日	
12	木		12	日		12	火		12	金		12	月	振替休日	12	月	
13	金		13	月		13	水	第1回業界研究会 キャリア講演会(2年)	13	土	本科推薦選抜 仮:県高校新人体育大会(サッカー) ～15日	13	火	試験返却日 (本科5年・専攻科)	13	火	
14	土		14	火		14	木		14	日		14	水		14	水	
15	日	学校説明会(那覇)	15	水	金曜日の授業	15	金		15	月		15	木		15	木	
16	月	フルフライトシミュレーターツアー(冬季) 選抜申込期間	16	木		16	土		16	火	寮祭(寮)	16	金	第2回業界研究会 試験返却日(本科1～4年)	16	金	
17	火		17	金	中間試験(複数同時実施科目)	17	日		17	水	学生寮月例大清掃(寮) キャリアセミナー(4年)	17	土		17	土	卒業式 専攻科修了
18	水	学生寮月例大清掃(寮) 航空技術者プログラム履修者 選抜	18	土	本科編入学試験	18	月		18	木	県高校新体育大会(サッカー) ～20日	18	日	本科学力選抜	18	日	
19	木	航空技術者プログラム履修者 選抜	19	日		19	火		19	金		19	月	臨時休講日	19	月	
20	金		20	月		20	水		20	土	本科専門実習による選抜	20	火	臨時休講日	20	火	
21	土	学生寮第4回特例大清掃(寮)	21	火	中間試験実施期間	21	木	学生寮居室点検・清掃(寮)	21	日		21	水	臨時休講日	21	水	春分の日
22	日		22	水		22	金		22	月		22	木	試験返却日(本科1～4年) 学生寮居室点検・清掃(寮)	22	木	
23	月	TOEIC・IPテスト(3年生)	23	木	勤労感謝の日	23	土	天皇誕生日 閉寮式 閉寮前大掃除(寮)	23	火		23	金	終業式	23	金	
24	火	TOEIC・IPテスト(4年生) 寮生自衛消防隊説明会(寮)	24	金		24	日	閉寮	24	水		24	土	開寮式 開寮前大清掃(寮)	24	土	
25	水	キャリア講演会(3年) キャリア講演会(4年) 航空技術者プログラム履修者 確定日	25	土		25	月	冬季休講	25	木	寮長・副寮長選挙(寮) 第2回寮生総会(寮)	25	日	閉寮	25	日	
26	木		26	日		26	火		26	金		26	月		26	月	
27	金		27	月		27	水	冬季一斉休業	27	土	全国高専英語プレゼンテーション コンテスト(～28日まで)	27	火		27	火	
28	土		28	火	木曜日の授業	28	木		28	日		28	水		28	水	
29	日	ロボコン九州沖縄地区大会	29	水	キャリア講演会(1年)	29	金		29	月					29	木	
30	月	学生寮避難訓練(寮)	30	木		30	土		30	火					30	金	
31	火					31	日		31	水					31	土	
備考		・インターンシップ報告会 ・第3回定期学生会議	備考			備考		・学生会主催イベント ・校内美化清掃(学生会主催) ・ツーターマーチ(学生会参加) ・地域清掃(学生会主催)	備考			備考		・キャリア講演会(5年・専攻科2年) ・校内美化清掃(学生会主催)	備考		・卒業式2部式(学生会主催)